

## 静岡植物研究会の腊葉標本とふじミュージアム

湯浅保雄

静岡植物研究会はいまから35年ほど前に発足した植物愛好団体です。その会は当初から県内の植物を調査し、標本に基づく静岡県の植物分布図を作ることを目的のひとつとしていました。作成された腊葉標本は静岡大学農学部標本室に保管していましたが、私が定年退職したら、その標本をどこに保管したらいいかいつも気になっていました。

あるとき、富士山山麓の小さな古民具展示館が富士山の植物を紹介する写真版冊子を出しました。その冊子をみると植物名に多くの間違いがありました。そこで、「静岡県に自然系の博物館があったら、そこに相談することで、間違いの少ないものが出来たのに残念である」というようなことを会報に書きました。当時、研究会の幹事をしていた伊藤二郎先生が、そういえば、静岡県に自然系の博物館が無い、それは作るべきだと言いだし、早速、伊藤二郎先生のお宅に、杉山恵一先生と私が呼ばれました。そこで、誰に声をかけるか、また当面の活動資金をどうするかなど話し合いました。活動資金は杉山先生と私とが10万円ずつ工面することとなり、杉山先生と一緒にビオトープ活動をしていた富士見緑化K.K.にお願いし、私は親しかった日本総研K.K.の大石社長にお願いしました。その資金で自然博推進協が動き始めました。伊藤先生と杉山先生はもう帰らない人となってしまいましたが、大石社長に寿司をご馳走になりながら、未来の博物館について語り合ったことは今でも懐かしく思い出します。

植物研究会の集めていた腊葉標本も、自然博推進協そして自然博ネットの活動のおかげで、いまでは「ふじのくに地球環境史ミュージアム」の一つの標本室に無事収まっています。

植物研究会がこれまでに集めた標本は9万点ほどですが、標本は利用されてナンボのもので、まだ台紙に貼付された標本は少ないのですが、誰でも見たい標本を簡単に探させ、また、新たに作成されたものは、容易に整理できるように、未貼付の標本も含めて科

名のアイウエオ順、科の中も種名のアイウエオ順で標本戸棚に配架しています。この配架方式は、学名をほとんど覚えていない私を含めた植物研究会の会員、そしてミュージアムのサポーターの方々には最適な方式だと思っています。学名は分類学の研究が進むとよく変わるものですが、和名は属の所属が変更になっても変わることがなく非常に安定しています。国内の博物館や大学の標本庫では、ほとんどエングラの分類体系で科を配列し、科の中は属名のアルファベット順、属の中は種名のアルファベット順で配架していますが、科の順番や学名を覚えるのが難しいため配架に苦労している話をよく耳にします。腊葉標本をアイウエオ順に配架している標本庫は他に無いと思いますが、標本を閲覧に来られた大学や博物館の分類学の専門家で、この配架方式を問題にした方はおりませんでした。今後ともこの配架方式を続けていただきたいと思っています。

多くの博物館では、植物標本をチャック付きポリ袋などに入れて一般来館者の閲覧に供していますが、この状態で細部をルーペや顕微鏡で拡大して見ようとするとポリ袋が邪魔して鮮明に見ることができません。そこで、植物研究会で集めた腊葉標本はスキャナーでデジタル画像化し、パソコンを使ってミドルヤードで見ってもらうことを考えています。まだ2,000点ほどしかデジタル化できていませんが、デジタル化した画像はZoomifyというソフトを使えば、細部を一瞬にして拡大し細毛の形態や生え具合なども鮮明に確認出来ます。最近普及しだした4Kモニターを使えば、さらに精細な画像で見ることが出来るでしょう。

集められた標本は分布図、あるいは植物誌作成の基となりますが、それにはまだ数が足りません。今後とも植物採集に励む必要があります。新たに採集・作成した標本も、県民の自然学習、県の自然保護行政などにすぐ役立つように同様に整理していきたいと思います。